

## 不登校生徒支援事例について

### 【中野区立 A 中学校の取組】

#### 不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校4年生から不登校が続く第3学年生徒である。入学後、本人に会うことができず、家庭状況の把握も困難な家庭であった。保護者へ連絡しても素っ気ない対応が見受けられた。

#### 具体的な取組

教育相談部会での協議の結果、担任から定期的な配布物と担任から本人への手紙を書き、自宅のポストへ投函するとともに、月ごとの学校生活のイメージができるメッセージ等を同封することで、本人、保護者ともに、学校生活のイメージがつかめる手だてを講じた。

担任から保護者へ連絡が繋がった際には、スクールカウンセラーとの面談を提案し続けた。また、スクールソーシャルワーカーの役割についても情報を提供し、家庭内の悩みの解消ができる方策も伝えていった。

4月の段階から、高校入試に向けたスケジュールを渡し、様々な高校のパンフレット等、高校への進学情報を同封した。高校入試に向け、月ごとに取り組むべき内容について本人、保護者へ伝え、高校入試の手順が分かる手だてを講じた。

別室において、グーグル・クラスルームでの授業配信を行うとともに、各種学校行事及び進路説明会等の様子を録画し、タブレットで配信を行った。



#### 成果

担任からのアプローチにより、本人の中に進学のあることを保護者から電話で伝えられ、6月にはスクールカウンセラーと保護者の面談が行われた。7月の三者面談には保護者と本人が来校し、進学先のイメージを知ることができ、9月から登校が再開された。

#### 課題

第1学年の段階から取り組むことができていれば、もう少し早く学校復帰のできる生徒であった。

## 個に応じた不登校生徒支援について

### 【中野区立 B 中学校の取組】

#### 不登校生徒の状況

全校生徒に対して不登校生徒は約6%いる。生徒一人一人の状況は違っており、登校や復帰を目的とした個別の対応を推進している。「保健室登校」「別室登校」「授業取り出しでオンライン授業に参加」「スクールカウンセラーとの面談」など、個別課題や対応が多様化している状況である。

#### 具体的な取組

##### 魅力ある学校・学年・学級を目指して

- ・学校生活や人間関係作りの尺度を測る学級集団アセスメントを年2回実施し、主体的に取り組む集団、居心地の良い集団になっているかを指標に、教育活動の見直しや改善を推進している。
- ・周年記念としての運動会や合唱コンクール、記念式典などに多くの生徒ボランティアを募り活躍の場を多く設定する。



##### 支援会議の企画、運営

- ・スクールカウンセラーや心の相談員、養護教諭との連絡会を週1回程度行い、不登校生徒の別室登校や支援について検討している。
- ・不登校支援委員会にて情報共有を図り、校内支援委員会で個々の事情に考慮した対応策を担任や学年等に提案し、不登校の未然防止に努めている。

##### 不登校生徒の居場所づくり

- ・月1回実施する区教育支援室の定期訪問時に不登校対応加配教員が参加し、自宅や学校以外の居場所作りや生徒への支援に努めている。
- ・校内に「校内支援室」を整備し、個別対応ができるような居場所作りを推進した。



##### 不登校生徒の情報収集

- ・普段のやりとりや面談、保護者との連携で得た情報を定期的に共有する。
- ・年3回のいじめアンケートにおいて記述内容を共有し早期対策などを構築する。

#### 成果

加配教員を中心に、不登校対策委員会や校内支援委員会を組織的に運営できた。特に、具体策として校内に別室（校内支援室）を整備し、時間割を調整して個別対応ができるようにした。その成果として、学校復帰率が令和3年度は10.5%だったところ、令和4年度は28.6%となり18.1%の上昇が見られた。

#### 課題

不登校生徒の状況が多様化し、それに伴う個別支援の方法が複雑化している。復帰を目指すことその他に、別室でも同じ時間で活動できる環境を整えるために、人員や教室が足りないことが課題である。

## 不登校生徒への3年間の継続的な支援について

### 【中野区立C中学校の取組】

#### 不登校生徒の状況

対象生徒は、現在第3学年生徒である。中学校第1学年の後半から欠席が続いている。人と会ったり顔を合わせたりすることに不安を感じ、外出が難しい状況にある。第2学年のスキー教室や第3学年の合唱コンクールなどの学校行事には参加することができた。

#### 具体的な取組

##### オンライン授業配信（常時）

オンライン授業配信により、対象生徒の家庭学習を確保するとともに学校との関係性を継続させた。別室登校の際にも別室でオンライン授業を配信した。



##### オンライン面談

週に1度、担任と対象生徒及び保護者とのオンラインによる面談を実施した。時には、学年の教員や校長も面談に参加し、対象生徒との交流を深めた。また、対象生徒の理解度に適した学習教材を配信し、学習面の遅れに配慮した支援を行った。

##### 居場所づくり

既存の相談室や支援室だけでなく、新たに相談室を増設し、第2教育相談室として対象生徒の「居場所づくり」としての環境を整えた。



##### 組織的な支援

不登校対策委員会を毎週1時間、時間割に位置付け、対象生徒についての情報共有や対応策の検討を行い、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、支援室とも連携し支援を継続するとともに、「居場所づくり」に向けた環境整備を行った。

#### 成果

対象生徒への継続的な支援により、3年間を通して担任（学校）との信頼関係を構築することができた。その結果として、定期試験を受けたり、学校行事に参加したりすることができた。

#### 課題

教室に入ることはハードルが高く、授業を受けるまでには至っていない。